

多摩センターで体験 ～昔の人のサステナブルな暮らし～

SDGs発見ブック

多摩丘陵の豊かなみどりと都市機能が調和した“東京・多摩ニュータウン”。古代の時代から現在に至るまで、「自然との共生」「暮らしやすさの追求」をおこなってきました。
持続可能な社会の実現に向けて、数々の知恵と工夫を繰り返し、どのようにして現在の多摩センターになったのか。SDGsのヒントを見つけに探究してみよう！



東京都立埋蔵文化財調査センター



多摩めかいの会
(多摩市立グリーンライブセンター)



旧富澤家

テキストの使い方

- ・体験を通してSDGsの目標達成のヒントとなる取組みを見つけよう！
- ・見つけた取り組みをワークシートに記入して、関連するSDGs目標に○をつけよう

衣

縄文人の
ファッション

- ・ 〇〇草を材料に自然の素材の活用。
- ・ 虫やケガからも守る服を着ることは良い。



東京都立埋蔵文化財調査センター



縄文時代とSDGs

～約32,000年前から、多摩丘陵には人が暮らしていた?!～

1万年以上続いた平和な時代「縄文」

縄文時代は、日本で約1万年以上続いた狩猟採集の時代です。

それぞれが暮らす周りの環境の中で、限りある資源を有効に活用して生きていました。争いもなく、平和な時代が約1万年も続いた縄文時代の暮らしを体験し、現代のSDGsのヒントをみつけてみましょう!



まずは、現在の私たちと縄文時代の違いを見つけてみよう!

その違いが、私たちや、地球環境にとってどのような影響があるのかについて考えてみましょう!

衣

昔の人々の
ファッション



食

昔の人々の
料理



住

昔の人々の
家



生活

昔の人々の
暮らし



めかい作り体験（多摩めかいの会）



めかいとSDGs

～身近な植物をつかって産業を発展！？～

「めかい」とは多摩地域で自生する篠竹（シノダケ）で編んだ籠（カゴ）のことです。江戸時代から昭和前半まで、南多摩地域の多くの農家で農閑期の重要な収入源として作られていました。他の地域の竹細工とは違い、芸術的な完成度を求められない日用品だったため、訓練すれば誰もが作れたことが特徴です。多摩の伝統工芸「めかい」作りを体験して、サステナブルな暮らしのヒントを学ぼう！



- めかいの材料になぜシノダケを使ったのかを考えてみよう
- 体験会を通して何を伝承していこうとしているのか考えよう。

環境

素材など



伝承



旧富澤家



古民家を保存していくためには、活用していくことがポイントです。どんな活用方法があるか考えてみよう！

古民家とSDGs

～新しい使命をもった、古民家の再保存と活用～

名主の家の暮らしを学ぶ教育の場や誰もが利用できる集会場など、新たな役割を与え、古民家の保存と活用を実現しています。旧富澤家の見学でSDGsのヒントを探そう！

古民家の 保存と活用



まとめワーク

◆全体を振り返って、どんな気づきや発見があったかを書いてみよう

全体の学びを通して、あなた自身の中ではどんな気づきや発見があったかな？

グループやクラス内で気づきや発見をシェアしてみよう。
シェアすることで、ひとりでは気づかなかった、新たな気づきやヒントはあったかな？



今から自分でできる取り組みを考えてみよう

